

風土記の丘の花だより²²⁵

今、そしてこれから見られる植物(2024年3月2日)

今年の啓蟄(けいちつ)は3月5日、日差しが眩しく感じられるようになり、風土記の草花も日に日に数と種類を増やしています。まだまだ寒い日はあるでしょうが、春はもうすぐです。



いい香りがするので「もう咲いたのかな?」と思い、行ってみると、やっぱりジンチョウゲの花の香りでした。これは柳川家の南側です。間もなく近くの白いジンチョウゲも咲きそうです。ジンチョウゲの花には花びらがありません。花びらに見える白い部分は萼(がく)です。古く室町時代に渡来し、庭木として好まれてきました。雄株と雌株がありますが、日本ではほとんどが雄株で、実はありません。同じ仲間のミツマタも万葉植物園などで黄色い花が咲き始めています。そちらもご覧ください。



ヤブツバキの花が咲いています。木偏に春で椿、まさに春を代表する花ですね。左の写真は次に紹介するアセビの近くにある大きな木に咲く花です。他の木とは違い、花が小さめで全開しません。何か名前の付いた園芸品種かもしれませんね。ツバキはよくサザンカと混同されます。先日も、ある公の機関誌の表紙に「春の花・椿」という表題でサザンカの写真がデ〜と大きく載っていました。花びらがパラパラ散るのがサザンカ、花全体がポロッと落ちるのがツバキです。葉もツバキの方が断然大きいです。



アセビの花が少し前から咲いています。去年の記録によると「2月21日ほぼ満開」とありますので、今年は少し遅めですね。透き通るような白色の花もありますが、少し色づいたものもあり、違いを見比べるのも楽しいですね。アセビはツツジ科の植物です。この仲間は有毒植物が多く、誤って食べた馬が苦しみのあまり、のたうち回ったので漢字では「馬酔木」と書くようになったそうです。万葉集には「磯の上に生ふる馬酔木を手折らめど 見すべき君がありとは言はなくに」という悲しい歌が残っています。



去年の今頃、これと同じ仲間のツバキキンカクチャワンタケという長い名前のキノコを紹介したと思います。写真は、それとそっくりなホオノキキンチャクチャワンタケです。少し前まではモクレンキンチャク・・・という名前でしたが改名されました。もうすぐハクモクレンが咲きそうですね。みんながきれいな花を見上げている時、下の枯れ葉をゴソゴソしていたら、変な人と思われる可能性はありますが、チャレンジしてみてもいいかがですか? 松下